

題 言

木曾川橋梁の一大工事

鐵道省の關西線木曾川の架橋工事は、近代的施工法のレコードを作るべき日本工事界の一驚異である。最新の設備、最新の材料、而して最新の工法、此等の合理的統合工事が今や中京に近く一大盛觀を呈しつつある。

工事の進歩は人が先か、材料が先か、設備が先か、先づ此の工事狀況を見るべきである。

木曾川架橋工事はニューマチックケーソン十五箇を本年五月迄に全部沈下施工するものであるから二月三月頃は最も工事の壯觀を呈する時である、單に橋梁工事としてのみの参考でなく、一般的土木建築工事の最新最高の参考資料として實地見學上最も有益のものである。

初めて造られたる高級セメント

工事を迅速に仕上げるご云ふ事は、永い間、日本の禁物であつた、其間には種々な理由があつた。

然し如何なる理由があるにしても仕事が長引く事は全體の不經濟であり、不合理でもある。許す限りの迅速は、現代の科學が人類に要求してをる自然の大勢である。

畏くも多摩陵の玄宮は初めて鐵筋コンクリート造りませらるゝものにして、短日時の間に、最も完全なる施工を必要とするを以て、特に全國各方面よりコンクリート技術に優秀なる従業員約四十名が選抜せられ、寒夜を通じて一人三十時間も従業するの有様である。

尙ほ玄宮御工事用のセメントは迅速なる硬化を必要とするを以て、東京帝大應用化學科教授の永井彰一郎氏指導の下に淺野セメント會社川崎工場にて現在設備の最高能力を以て製作せられたる我國最初の高級セメントである。

此のセメントが嚴寒の施工に耐ゆる最も便利重寶なるものたるは玄宮御工事にて實證せられたる處にして、今後各方面の工事に大に實用せらるべきは言ふ迄もない。之が使用上の注意は工事知識として必要なるを以て永井教授の稿を煩はず筈である。

長野博士の近業

ゼネーバの國際聯盟會館の建築設計の募集が世界各國に向つて發表せられて、之が應募に對しては日本の建築家も大に胸を躍らしたものである。

此時に我が工學博士長野宇平治氏が圓熟の建築藝術を以て之に應募せられた事は我國の技術界に對して大なる刺戟となつた。

本號に長野博士設計の正金銀行の概要を傳ふるは博士の近業を伺ふ一端にすぎない。

圖は關西線木曾川橋梁工事の工事設備に關する平面圖の一部を示すものである  
斯る迅速工事には準備工事に細心の注意と研究が拂はれてをるから、此の圖の一點一劃も注意せられん事を望む、圖は順次頁を追つて四頁に連續するものである。

